

建築主：医療法人社団中郷会 新柏クリニック
 設計：株式会社 竹中工務店
 施工：株式会社 竹中工務店
 所在地：柏市新柏1丁目4番5

～3期目に入った糖尿病メディカルタウンの明日の姿～

新柏クリニック糖尿病みらい



多面形の木天井がエントランスからスタジオまでひとつに繋ぐ

最初の第1期計画から一貫して糖尿病患者のみならず、地域住民にも癒しを提供する「メディカルケアタウン」の創出を目指してきた医療施設である。今回の第3期は1期、2期と1区画離れた場所に設けられ、美しい庭を物理的、視覚的に建築に取り込んだクリニックとしてこれからの新しい姿を実現している。特に、通常ストレスとなりがちな待合いの空間は、「受付→採尿・採血→問診→診察」の流れに沿った待合いと、運動・食事療法を行うスタジオをひとつながりの空間として蛇行させ、庭を囲むような自由で絶妙な空間形状と配置を見せている。この空間は細い鉄骨の柱と、カラマツの梁、ヒノキの天井の混構造で、BIMとプレカットを駆使して実現した複雑な屋根形状はハイサイドライトを巧みに取り込み、採光と排煙の実利的機能性を超えた豊かな内部空間と、水平線が強調された折り紙のような屋根形状がユニークな外観を創り出している。

この恵まれた条件のプロジェクトにおいて、庭を含む全体構成から細部までを貫くインハウスの若い設計者の心意気は小気味よく、これからのクリニックのあり方に一つの望ましい方向性を示していると言えるだろう。そして今後も持続的に展開されるに違いない超高齢化社会において、周辺地域に美しく開いた健康・医療の拠点として、この「クリニックタウン」に見られる総合的で革新的な建築環境の取り組みの発展に期待するところが大きい。新型コロナウイルス感染症の影響に翻弄された2020年において、そのことを強く思わざるを得ない。（岩村 和夫）



雁行する診察室上部のハイサイドから空を見る



カラマツの登り梁が連なる伸びやかな軒先とガーゴイル

（撮影全て/Shigeo Ogawa）